

本日は、私たち修了生のためにこのような式典を催していただき、誠にありがとうございます。今日という日を迎えられるのは、親身に指導を続けてくださった先生方、ともに歩んできた同期の皆様の支えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。

2年前、大学院への進学を決めた時、私は仕事を続ける中で、どうにもならない袋小路に陥っており、横殴りに降りしきる問題を前にして、身動きが取れないような気分でした。なんとか現状を打開しようと、「大規模で複雑な問題を解決する」というコンセプトに惹かれて、ここ SDM を受験しました。当初は会社を辞めるつもりでしたので、生活はどんなでもいいと、ただ世の中の問題をどうにかしたいという衝動に駆られて、SDM に入学した時の気持ちを今でも覚えています。ここにいる修了生の皆さんも、さまざまな覚悟を持って、ここに集まってきたことと思います。

その期待に応えるべく、先生方は、授業やゼミの中で、私たちの覚悟をはるかに上回る熱量で、時間を惜しまずに向き合ってくださいました。そして、これまでの人生では決して出会うことのなかった多様なバックグラウンドを持つ仲間と交流でき、互いに助け合い高め合ってきた経験は、とても実り豊かで素晴らしいものとなりました。ここにいる誰か一人でも欠けたら、このような学びの空間は成立しなかったと言えるくらい、かけがえのない時間を過ごせたと思います。

必修の SDM 序論の最初の授業で、「SDM で学びたいことは何か」という課題がありました。そこで私は「大規模で複雑な問題を解決できる能力を身につけたい」と書いていました。当初描いていた理想の姿になれたかどうかはわかりませんが、現実の社会では、依然として、たくさんの方が降り注いでいます。それでも、今なら、外の世界へと一步を踏み出していこうという勇気を持つことができます。問題に直面することも悪くない、むしろ問題と出会うのは幸せなのだと思うようになったのは、自分なりに大きな成長でした。

学び舎を離れる今日、修士2年間で結果を出すという制約はなくなり、現実にあふれる、さらなる大きな問題に立ち向かうことになります。今後、私たち修了生の主体的な行動をもって SDM の教育成果を Validation していくことが、労を惜しまずに指導してくださった先生方への何よりの恩返しだと思います。そして、ここに集まった多様な仲間と一緒に、この先、どんな困難にも立ち向かうことができると確信しています。これで終わりにせず、これからも、またみんなで力を合わせて、より良い社会に変えていけるような新しいシステムをデザインしていきたいです。その決意を胸に刻みながら、SDM 研究科のますますの発展と、そこに関わるすべての方々のご活躍を祈念いたしまして、修了の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

2019 年 3 月 28 日

慶應大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

修了生代表 羽生 琢哉